

2023年10月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年3月13日

上場会社名 株式会社 システム デイ
コード番号 3804 URL <https://www.systemd.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤田 雅己

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 堂山 遼 TEL 075-256-7777

四半期報告書提出予定日 2023年3月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年10月期第1四半期の連結業績(2022年11月1日~2023年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年10月期第1四半期	975	22.4	166	27.7	167	27.6	111	98.8
2022年10月期第1四半期	796	8.5	130	21.7	131	22.5	56	20.7

(注) 包括利益 2023年10月期第1四半期 112百万円 (92.9%) 2022年10月期第1四半期 58百万円 (15.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年10月期第1四半期	17.46	
2022年10月期第1四半期	8.78	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年10月期第1四半期	5,268	3,564	67.7	556.67
2022年10月期	5,899	3,579	60.7	559.03

(参考) 自己資本 2023年10月期第1四半期 3,564百万円 2022年10月期 3,579百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年10月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年10月期		0.00		20.00	20.00
2023年10月期(予想)		0.00		22.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年10月期の連結業績予想(2022年11月1日~2023年10月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,360	2.8	541	19.9	539	20.1	368	15.8	56.72
通期	4,621	9.2	909	1.3	907	0.9	621	5.1	95.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年10月期1Q	6,498,000 株	2022年10月期	6,498,000 株
期末自己株式数	2023年10月期1Q	95,260 株	2022年10月期	95,260 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年10月期1Q	6,402,740 株	2022年10月期1Q	6,402,814 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは業種・業務に特化したパッケージソフトを核とした付加価値の高いソリューションを顧客に提供しており、子会社を含めた6つの業種・業務を対象に事業を展開しております。その対象とする市場に向けて、新規及び追加のシステム提案によるフロービジネスを拡げるとともに、サポート及びクラウドサービス提供による安定的なストックビジネスを展開しており、中でも近年は需要が高まっているクラウドサービスの拡大に力を入れております。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う行動制限が緩和されつつあり、社会経済活動の正常化に向けた取り組みが進められる中、当第1四半期連結累計期間における当社グループにおきましては、カスタマイズ案件及び仕入商品の販売増加等に伴い、当初計画を上回る売上、営業利益を計上することができました。

学園ソリューション事業におきましては、業界トップシェアの『キャンパスプラン.NET Framework』及び『キャンパスプラン for Azure』（クラウドサービス）の販売により、安定した売上、営業利益を計上することができました。また、前連結会計年度にトータルリリースした次世代学園総合情報システム『CampusPlan Smart』の受注や引き合いも数多く頂いており、ユーザ増加に向けて引き続き拡販に努めてまいります。

スポーツ・健康関連施設向け会員・会費管理システム『Hello EX』、文化観光施設向け運営支援システム『Hello Fun』を主に展開しているウェルネスソリューション事業におきましては、コロナ禍の影響が依然として色濃く残る中、新規出店が相次ぐ24時間ジムやゴルフスクール等の小規模フィットネス施設に対してクラウド型会員管理・会費回収システム『Smart Hello』を数多く納品することができました。また、2022年11月にリリースしたクラウド型チケット管理システム『Smart Hello チケット』につきましては、受注済案件の納品作業を進めるとともに、さらなる顧客獲得に向けた営業活動を行っております。

公立小中高校向け校務支援システム『School Engine』を提供している公教育ソリューション事業におきましては、当社がトップシェアを占める都道府県向け公立高校、複数の大規模自治体を含んだ多くの公立小・中学校にサービス提供を行っております。当四半期連結累計期間におきましても、2023年4月本稼働の案件に係る諸準備を進めるとともに、複数の大規模案件獲得に向けた事業活動を行いました。

公共団体向けの公会計ソリューション事業におきましては、公会計のデファクトスタンダードとなった『PPP(トリプル・ピー) Ver.5 新統一基準対応版』が、府・県・政令市・特別区などの大規模自治体をはじめとした多くの市町村自治体・公共団体に導入いただいた結果、全国の自治体の過半数を超える圧倒的なシェアを占めており、安定したストック収入を計上することができました。なお、当四半期連結累計期間におきましては、同製品の新規導入およびリプレイスの動きが落ち着いたこともあり、公会計の先進的な考え方を取り入れた、地方公共団体向け『Common財務会計システム』の導入ユーザを増やすべく、積極的な営業展開と追加機能の開発に力を注ぎました。

民間企業や学校法人をはじめ幅広い市場に向けて、コンプライアンス、ガバナンス支援ソフトとして『規程管理システム』及び『契約書作成・管理システム』を提供しているソフトエンジニアリング事業におきましては、高機能かつコストパフォーマンスに優れたこれらのソフトが市場で高い評価を受けて毎期業績を伸ばしております。当四半期連結累計期間におきましても、民間企業や学校法人をはじめとした幅広い市場へ当ソリューションの導入を進めることができました。

保険薬局向け事業を営んでいる株式会社シンクにおきましては、引き続き保守サポート収入を安定的に確保するとともに、厚生労働省が推進するオンライン資格確認の導入に全面的に取り組みました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高975,020千円（前年同期比22.4%増）、営業利益166,902千円（前年同期比27.7%増）、経常利益167,628千円（前年同期比27.6%増）、親会社株主に帰属する四半期利益111,794千円（前年同期比98.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べて631,286千円減少して5,268,283千円となりました。主な要因は、売上計上により受取手形、売掛金及び契約資産が25,210千円増加、仕掛品の制作等により棚卸資産が56,235千円増加、次世代システムの開発によりソフトウェア仮勘定が28,662千円増加したことに対して、営業活動に伴う運転資金等により現金及び預金が653,954千円減少、償却によりソフトウェアが98,573千円減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて616,165千円減少して1,704,054千円となりました。主な要因は、仕入及び検取等により支払手形及び買掛金が46,491千円、賞与引当金が26,597千円、退職給付に係る負債が5,144千円増加したことに対して、収益の履行義務の充足等により前受収益が175,890千円、未払法人税等が187,398千円、長期借入金が29,997千円、その他流動負債が296,721千円、それぞれ減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて15,120千円減少して3,564,228千円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益及び配当金の支払いにより利益剰余金が16,260千円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年10月期の業績予想につきましては、2022年12月12日に公表いたしました業績予想からの変更はございません。なお、新型コロナウイルス感染症による影響については、引き続き状況を注視しており、今後の経過次第では当社グループの事業活動に影響を及ぼす可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,225,450	571,496
受取手形、売掛金及び契約資産	746,960	772,170
棚卸資産	113,162	169,397
その他	35,752	37,001
貸倒引当金	△1,558	△1,654
流動資産合計	2,119,767	1,548,411
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	191,583	187,551
土地	1,625,952	1,625,952
建設仮勘定	—	53,550
その他(純額)	11,925	12,556
有形固定資産合計	1,829,461	1,879,610
無形固定資産		
のれん	70,208	66,740
ソフトウェア	672,891	574,317
ソフトウェア仮勘定	595,351	624,013
無形固定資産合計	1,338,451	1,265,072
投資その他の資産		
投資有価証券	22,899	24,841
繰延税金資産	155,344	105,807
保険積立金	350,678	352,064
その他	83,185	92,770
貸倒引当金	△219	△296
投資その他の資産合計	611,889	575,188
固定資産合計	3,779,802	3,719,871
資産合計	5,899,569	5,268,283

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年1月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	160,911	207,403
1年内返済予定の長期借入金	128,358	123,360
前受収益	626,994	451,103
未払法人税等	196,454	9,055
賞与引当金	—	26,597
その他	486,568	189,847
流動負債合計	1,599,287	1,007,367
固定負債		
長期借入金	433,350	403,353
役員退職慰労引当金	25,009	25,616
退職給付に係る負債	246,496	251,640
その他	16,077	16,077
固定負債合計	720,932	696,687
負債合計	2,320,219	1,704,054
純資産の部		
株主資本		
資本金	484,260	484,260
資本剰余金	619,313	619,313
利益剰余金	2,621,096	2,604,835
自己株式	△143,983	△143,983
株主資本合計	3,580,686	3,564,426
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,336	△197
その他の包括利益累計額合計	△1,336	△197
純資産合計	3,579,349	3,564,228
負債純資産合計	5,899,569	5,268,283

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年1月31日)
売上高	796,689	975,020
売上原価	431,022	561,697
売上総利益	365,667	413,323
販売費及び一般管理費	234,955	246,421
営業利益	130,712	166,902
営業外収益		
受取利息及び配当金	149	362
未払配当金除斥益	244	306
受取手数料	255	259
その他	70	362
営業外収益合計	719	1,290
営業外費用		
支払利息	28	563
その他	—	0
営業外費用合計	28	564
経常利益	131,402	167,628
特別損失		
役員弔慰金	7,200	—
役員退職慰労金	42,362	—
特別損失合計	49,562	—
税金等調整前四半期純利益	81,840	167,628
法人税、住民税及び事業税	2,777	6,798
法人税等調整額	22,822	49,035
法人税等合計	25,600	55,833
四半期純利益	56,239	111,794
親会社株主に帰属する四半期純利益	56,239	111,794

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年1月31日)
四半期純利益	56,239	111,794
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,303	1,139
その他の包括利益合計	2,303	1,139
四半期包括利益	58,543	112,933
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	58,543	112,933
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年11月1日 至 2022年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結損益 計算書計上額 (注3)
	ソフトウェア 事業				
売上高					
フロー収益(注4)	281,992	5,910	287,902	—	287,902
ストック収益(注4)	508,787	—	508,787	—	508,787
外部顧客への売上高	790,779	5,910	796,689	—	796,689
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	840	840	△840	—
計	790,779	6,750	797,529	△840	796,689
セグメント利益	201,142	3,807	204,950	△74,238	130,712

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、各種広報宣伝の企画・制作、テナント賃貸等の業務を行っております。

2. セグメント利益の調整額△74,238千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. フロー収益とは、ライセンス(使用許諾権)料、カスタマイズ、導入支援(インストラクト、データコンバート等)、ソフト導入に関連するハード機器・他社商材の販売による収益のことをいい、納品・検収時に一括売上計上されます。

ストック収益とは、システム運用サポートサービス、クラウドサービス提供によるランニング収益のことをいい、サービス提供期間に応じて売上計上されます。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年11月1日 至 2023年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結損益 計算書計上額 (注3)
	ソフトウェア 事業				
売上高					
フロー収益(注4)	369,133	5,631	374,765	—	374,765
ストック収益(注4)	600,254	—	600,254	—	600,254
外部顧客への売上高	969,388	5,631	975,020	—	975,020

セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	750	750	△750	—
計	969,388	6,381	975,770	△750	975,020
セグメント利益	232,664	3,721	236,386	△69,483	166,902

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、各種広報宣伝の企画・制作、テナント賃貸等の業務を行っております。
2. セグメント利益の調整額△69,483千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. フロー収益とは、ライセンス（使用許諾権）料、カスタマイズ、導入支援（インストラクト、データコンバート等）、ソフト導入に関連するハード機器・他社商材の販売による収益のことをいい、納品・検収時に一括売上計上されます。
- ストック収益とは、システム運用サポートサービス、クラウドサービス提供によるランニング収益のことをいい、サービス提供期間に応じて売上計上されます。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。